

地域・産業牽引型高度人材育成プログラム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：大阪府立大学（総括責任者：奥野 武俊）

プロジェクトの概要

地域に根ざした公立大学として自然な流れで育まれてきた産業指向型人材育成手法をシステム化し、永続的に機能するイノベーション人材養成システムを構築し、基礎科学における高度学術研究能力と、その成果を新しい技術概念や産業の開拓に強力に結びつける企業マインドを調和させた学位取得研究者を、産学が協同で育成する。人材養成システムにおいては、既存の専攻などで枠組みされた教育システムを、「産学協同高度人材育成センター」と「21世紀科学研究機構」を用いて改革し、本拠点活動を全学的取り組みの核と位置付ける。本センターには産学の育成スタッフが配置され、育成プログラムで展開する企業との共同研究のコーディネートなどを実施する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	a	s	s	s	a

総合評価： S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

「産業界を目指す人材育成」、「産業界と協働して育成し、教員のみでの育成はしない」、「全学的に実施する」という学長の方針とリーダーシップの下、外部の意見も取り入れ、全学的取組、改革がなされた。全学の学生や教員の意識改革にも注力し成果が見られ、特に、バイオ系の養成実績が高いことは評価できる。本プロジェクトの発展・向上と並行して、専門性を究めることができるようなシステムの完成を期待する。

- ・ **目標達成度**：企業と協働によるプログラムが構築されており、人材養成システム構築は目標を達成している。当初の目標人数が高かったこともあり養成者数は目標人数をやや下回ったが、機関に在籍するポストドクター、博士課程（後期）学生の人数から見れば養成者数は多いと考えられ、評価できる。特に、ポストドクターの養成者数については、高い実績を上げている。
- ・ **イノベーション人材養成システム改革状況**：学長のリーダーシップの下、教員の意識改革を行い、産学協働により本プロジェクトを全学で展開したことで、カリキュラム改革にも成功した点は高く評価できる。また、地域に根ざした企業連携の取組は機能的であり、本事業の実施に高い効果があった。
- ・ **実践プログラムの開発・運用状況**：構築したプログラムの個々の中身は深く検討されており、良いプログラムとなっている。その結果として、教員の意識改革に成功し、博士課程（後期）

の入学者も倍増したことは高く評価できる。

- **実施体制**：学長の強いリーダーシップの下、全学の取組が効果的に機能していることは高く評価できる。今後は、事業の継続とさらなる発展に向け、これまでの実施体制を学内で組織化、システム化させることを期待する。
- **今後の進め方**：今後は、産学連携により企業と協働し事業を継続していくマインドを常に持ちつつ、学長のリーダーシップとともに組織的対応の強化による継続を期待する。